

諏訪の景気動向

平成17年11月

(平成17年10月末D・I調査)

平成17年11月14日

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成17年10月末）

平成17年10月末アンケート調査および企業訪問ヒヤリング調査からまとめた諏訪地方の景況

当金庫が諏訪地方 201社のご協力を得て行った10月末の景気動向調査からみた地域の景況は、「3ヶ月前」と比べ業況判断DIが 2.5ポイントで前回調査に続きプラスとなり引き続き緩やかな回復傾向を示している。

製造業の業況は「好転」18.4%、「悪化」15.8%で業況判断DIは 2.6ポイントで前回調査に続きプラスとなり地域製造業は企業、業種により区々ではあるものの全体としては緩やかな回復傾向となっている。

「3ヶ月前」と比べての受注状況DIは 2.0ポイントとなっている。規模別にみると従業員数100人以上企業の受注状況 DI は 41.9ポイント、30人から99人は 3.8ポイント、29人以下の企業は 11.8ポイントで企業規模に応じて格差がみられる。業種別では電気機械に受注増加企業が多くみられ、「3ヶ月後の予想」では輸送用機械に受注増加を予想する企業が多くみられる。他の業種では受注減少を予想する企業が多くなっており業種により見方が分かれ全体での受注予想 DI は 2.0ポイントとなった。

ヒヤリング調査から自動車関連企業は引き続き堅調な生産状況が続き、IT機器などメーカーの生産が増加しており地域の関連企業の受注が増加している。

商業は、10月の天候は平均気温が戦後（1945年統計開始後）3番目に高く衣料品など秋の季節商品の売れ行きは低調であった。食料品は昨年比では御柱小宮の影響を受けており、地域により大型店のリニューアル開店の影響を受けた店舗がみられた。大型家電店では薄型TVなど順調な売れ行きの商品もみられた。商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 0.0ポイントで御柱の「前年同月比」では 35.7ポイントとなった

観光・サービス業は、秋の行楽シーズンを迎え宿泊客が増加し「3ヶ月前」と比べた宿泊客数 DI が 22.2ポイントとなった。

業況判断 DI は「3ヶ月前」と比べ 15.8ポイント、「前年同期比」では 10.5ポイントとなるなど業況が幾分回復した。

建設業は、大型公共工事の案件はみられず受注環境に変化がみられず厳しい状況が続いている。

収益性は、製造業は受注単価の低下、原材料費の値上がり、原油高騰など厳しい環境が続いているが受注が上向いており収益性に幾分改善がみられた。非製造業は観光・サービス業は宿泊客の増加から幾分改善がみられたが、商業は競争激化、来店客数の減少、建設業

は厳しい受注環境が続いており、それぞれの業種で収益性に改善が見られず非製造業全体としては依然マイナスとなり収益改善は見られない。

9月の諏訪地方の有効求人倍率は1.32倍で1昨年10月から24ヶ月連続して1倍台を維持しており総じて雇用環境は安定している。

新規求人は諏訪、岡谷職安合わせて1,709人で前年同月比0.1%の減。新規求職者数は930人で前年同期比7.6%増となっている。

業況判断DIの推移（3ヶ月前と比較して）

今回調査（10月末）の回答全社201社の「3ヶ月前」と比べての業況は横這いとする企業が65.7%、業況判断DIは2.5ポイントと2期続いてプラスとなり業況は回復傾向を示している。

製造業の業況判断DIは2.6ポイントで2期連続してプラスとなっており、本年1月を底に引き続き回復傾向をみせている。受注状況は51.7%の企業が「不変」としている。電気機械、金属製品に増加企業がみられるがプラスチック工業や一般機械に減少した企業がみられる。製造業全体としての受注状況DIは2.0ポイントで業種や企業により受注状況は区々となっているが全体では幾分回復している。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは2.0ポイントとなっている。シーズンを迎えた観光・サービス業に好転した企業が多くみられるが、商業は扱い品目により区々となっており、建設業は公共事業の発注案件が少ないなど受注環境は好転せずに厳しい状況が続いている。

産業別の自社業況

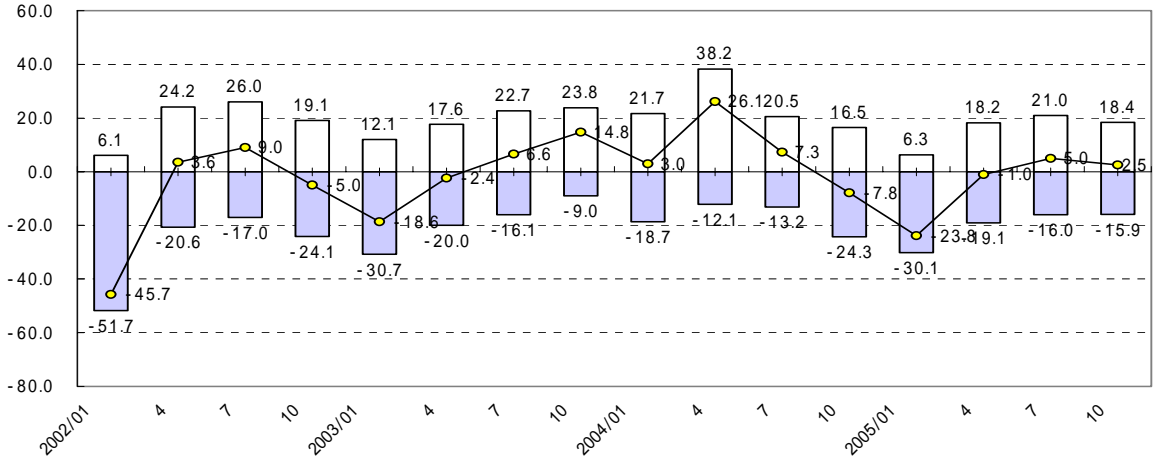
（企業数・%）表 - 1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体	201	18.4	65.7	15.9	2.5	198	29.8	42.9	27.3	2.5	198	12.6	72.2	15.2	-2.5
製 造 業	152	18.4	65.8	15.8	2.6	151	33.1	41.1	25.8	7.3	150	10.7	76.0	13.3	-2.7
非 製 造 業	49	18.4	65.3	16.3	2.0	47	19.1	48.9	31.9	-12.8	48	18.8	60.4	20.8	-2.1
商業(大型店)	14	14.3	71.4	14.3	0.0	14	7.1	50.0	42.9	-35.7	14	14.3	64.3	21.4	-7.1
建 設 業	16	6.3	75.0	18.8	-12.5	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	15	20.0	66.7	13.3	6.7
観光・サービス	19	31.6	52.6	15.8	15.8	19	36.8	36.8	26.3	10.5	19	21.1	52.6	26.3	-5.3

自社業況判断DIの推移(「3ヶ月前」と比べて)

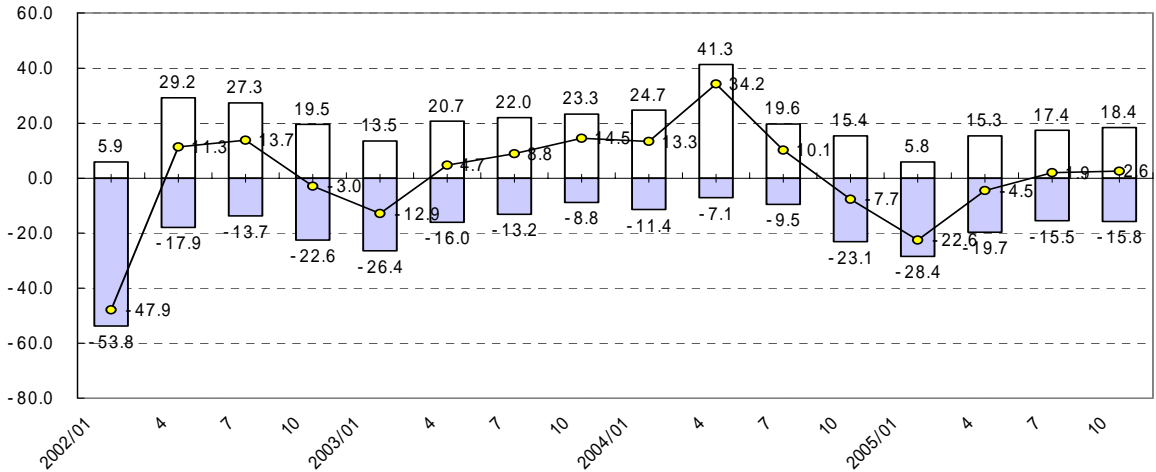
回答全社

グラフ - 1



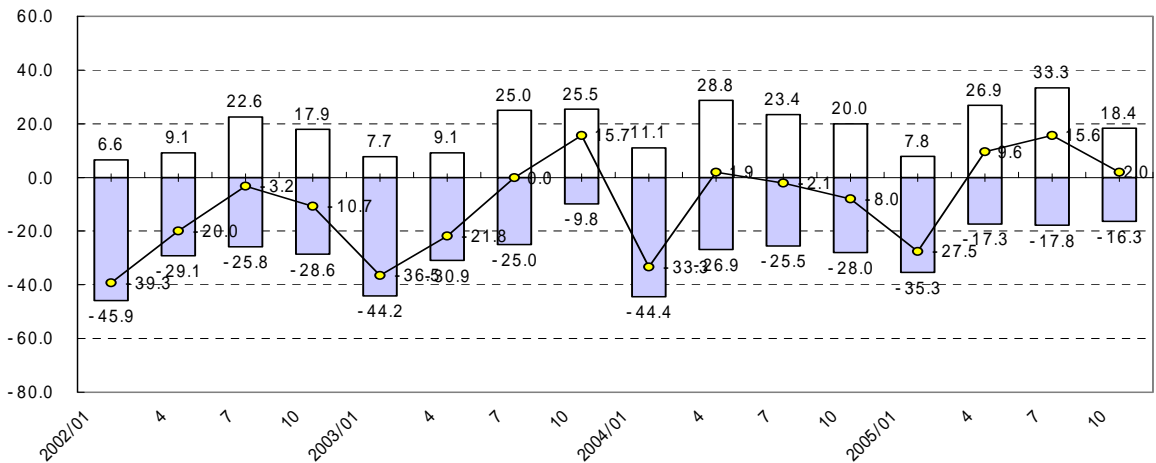
製造業

グラフ - 2



非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)

グラフ - 3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業の業況判断DIは 2.6ポイントで前回調査に続きプラスとなった。

業況判断は業種により区々となっており電気機械、一般機械に業況が好転した企業が増え精密機械、プラスチック工業などに業況悪化企業がみられる。

規模別では100人以上の企業に業況が好転した企業が多く業況判断DIは 21.9ポイントとなっているが29人以下の企業の業況判断DIは 5.9ポイントとなっており企業規模により業況が分かれている。

携帯電話、IT機器はメーカーの生産増加から下請け企業の受注は増加しているが受注単価は厳しい。自動車関連や産業機械など設備関連の企業は「好転」「横這」とする企業が多く高水準の生産が続いている。

地域企業は 65.8%の企業が業況は「横這」としているが「好転」企業が 18.4%で前回調査時の 17.4%に続き増加している。「悪化」した企業が 15.8%みられるものの製造業全体としては1月を底に緩やかな回復傾向が続いている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
製 造 業	152	18.4	65.8	15.8	2.6	151	33.1	41.1	25.8	7.3	150	10.7	76.0	13.3	-2.7	
規 模	1～29人	68	11.8	70.6	17.6	-5.9	67	23.9	52.2	23.9	0.0	66	10.6	77.3	12.1	-1.5
	30～99人	52	21.2	59.6	19.2	1.9	52	36.5	34.6	28.8	7.7	52	11.5	73.1	15.4	-3.8
	100～人	32	28.1	65.6	6.3	21.9	32	46.9	28.1	25.0	21.9	32	9.4	78.1	12.5	-3.1
中 分 類	金 属 製 品 製 造 業	22	18.2	63.6	18.2	0.0	22	22.7	40.9	36.4	-13.6	22	4.5	86.4	9.1	-4.5
	一 般 機 械 器 具 製 造 業	39	17.9	74.4	7.7	10.3	39	35.9	51.3	12.8	23.1	38	15.8	78.9	5.3	10.5
	電 気 機 械 器 具 製 造 業	28	28.6	53.6	17.9	10.7	28	42.9	21.4	35.7	7.1	28	7.1	67.9	25.0	-17.9
	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	16	12.5	81.3	6.3	6.3	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	25.0	68.8	6.3	18.8
	精 密 機 械 器 具 製 造 業	18	16.7	55.6	27.8	-11.1	18	27.8	33.3	38.9	-11.1	18	11.1	61.1	27.8	-16.7

諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

金属製品（プレス、メッキ、熱処理など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 0.0ポイントとなっている。好転企業が 18.2%で前回調査時の 19.0%に続いて好転しており悪化した企業が前回の 28.6%から 18.2%に減少した。「3ヶ月後」の業況は「横這」とみる企業が 86.4%みられるが受注が減少するとみる企業もあり予想業況DIは 4.5ポイントとなっている。

一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは10.3ポイントで、工作機械、専用機械は自動車関連機械や自動化・省力化設備などを主体に順調な生産を続けている。当面高水準の生産が続いており「3ヶ月後」については「横這」とみる企業が多くなっているが「好転」とみる企業が15.8%みられ予想業況DIは10.5ポイントで引き続き高水準となっている。

電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

「3ヶ月前」と比べ業況が「好転」した企業が28.6%で、業況判断DIは10.7ポイントで1月を底に回復した。携帯電話、デジタル家電関連企業の受注が回復したがクリスマス商戦や年末商戦が終わると受注が減少するとみる企業のみられ「3ヶ月後」の予想業況DIは、17.9ポイントとなっている。

輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは6.3ポイントとなっている。「横這」とする企業が81.3%で「好転」とみる企業が12.5%みられる。国内の自動車生産は高水準で安定しており発注量は増加している。

精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは11.1ポイントとなっている。「横這」とする企業が55.6%みられ受注増加企業のみられるが受注単価が下がり業況が悪化した企業のみられる。

他の製造業

食料品、繊維工業、プラスチック工業、非鉄金属など業種、取引先により業況判断は区々となっている。非鉄金属に好転企業のみられた。

規模別業況

製造業の規模別業況判断DIは1人～29人企業 5.9ポイント、30人～99人企業 1.9ポイント、100人以上企業 21.9ポイントで100人以上企業に業況が「好転」した企業が多くみられる。「3ヶ月後」の業況の予想では「好転」「悪化」と見方が分かれおり予想業況DIは3.1ポイントとなっている。

ヒヤリング調査からは大手企業の中には電子デバイスなど生産数量は増加しているが販売単価が厳しくなっており完成品メーカーの販売競争の激しさが窺える。

業種別・規模別受注状況

製造業全社の受注状況は「3ヶ月前」と比べ増加企業25.2%、減少企業23.2%で、受注状況DIは2.0ポイントで5期ぶりにプラスとなった。

規模別の受注状況はいずれの規模も「不変」が多いものの従業員規模の多い企業に受注増加企業が多くなっている。受注状況DIは100人以上企業の受注状況DIが41.9ポイント、30人～99人企業 3.8ポイント、29人以下企業 11.8ポイントで受注状況は企業規模格差が生じていることが窺われる。29人以下企業では26.5%で受注が減少しており「3ヶ月後」の

予想でも 13.6%が受注減少を予測している。

業種別では「3ヶ月前」と比べ受注状況DIは電気機械 10.7ポイント、輸送用機械 6.7ポイント、精密機械 5.6ポイント、金属製品 4.5ポイントと4業種が受注増加となっている。一般機械は高水準の生産が続いているが減少企業もみられ受注状況DIは 5.1ポイントとなった。

主要5業種の「3ヶ月後」の予想受注状況DIは 1.6ポイントとなっている。

ヒヤリング調査ではIT関連デバイスや部品加工など受注量は増加しているがクリスマスセールを前にしての受注増との見方もあった。また受注単価に対応できる収益体制の整備が急務となっていることが窺えた。産業機械関連の受注は自動車関連設備を中心に堅調に推移しており当面高水準の生産が続くとみられる。

業種別・規模別受注状況表

表 - 3

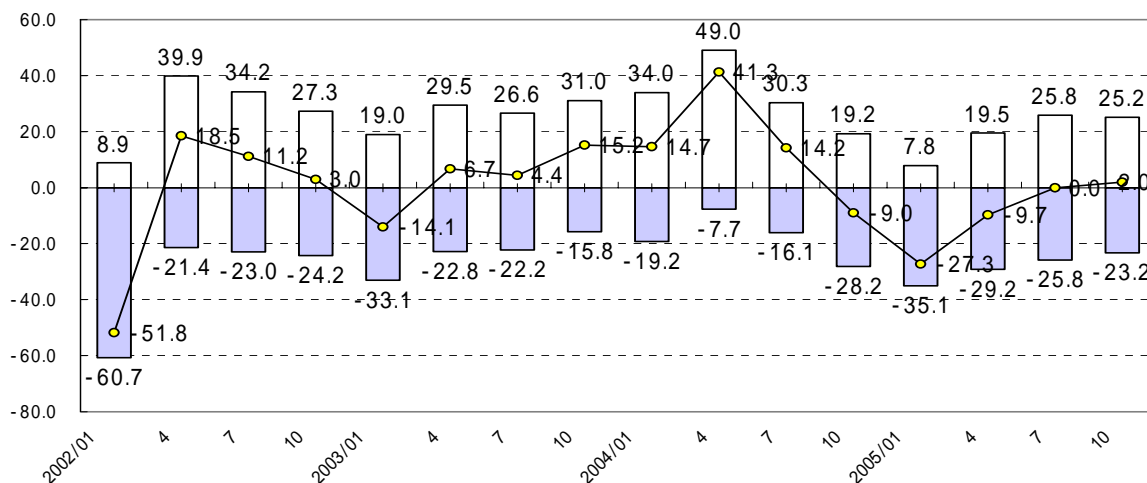
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業数	増加	不変	減少	DI	回答企業数	増加	不変	減少	DI	回答企業数	増加	不変	減少	DI	
製造業	151	25.2	51.7	23.2	2.0	150	34.0	32.0	34.0	0.0	150	16.7	64.7	18.7	-2.0	
規模	1～29人	68	14.7	58.8	26.5	-11.8	66	24.2	37.9	37.9	-13.6	66	12.1	74.2	13.6	-1.5
	30～99人	52	26.9	42.3	30.8	-3.8	52	36.5	26.9	36.5	0.0	52	17.3	57.7	25.0	-7.7
	100～人	31	45.2	51.6	3.2	41.9	32	50.0	28.1	21.9	28.1	32	25.0	56.3	18.8	6.3
中分類	金属製品製造業	22	22.7	59.1	18.2	4.5	22	22.7	45.5	31.8	-9.1	22	4.5	86.4	9.1	-4.5
	一般機械器具製造業	39	17.9	59.0	23.1	-5.1	39	28.2	41.0	30.8	-2.6	38	21.1	65.8	13.2	7.9
	電気機械器具製造業	28	39.3	32.1	28.6	10.7	28	42.9	21.4	35.7	7.1	28	21.4	50.0	28.6	-7.1
	輸送用機械器具製造業	15	20.0	66.7	13.3	6.7	16	37.5	25.0	37.5	0.0	16	25.0	75.0	0.0	25.0
	精密機械器具製造業	18	44.4	16.7	38.9	5.6	18	38.9	11.1	50.0	-11.1	18	16.7	33.3	50.0	-33.3

製造業全社の受注状況DIの推移

全社

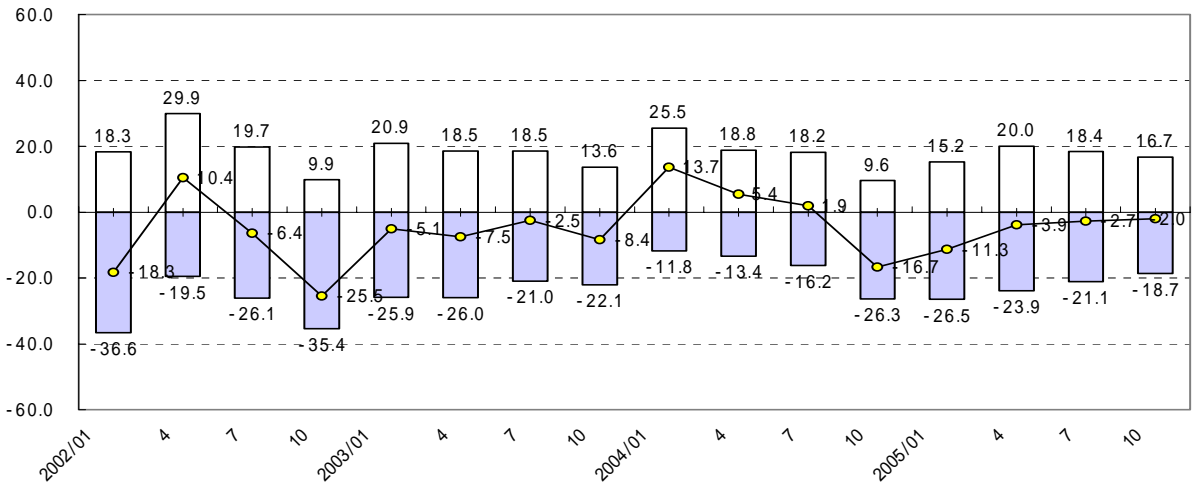
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 4



「3ヶ月後」の予想

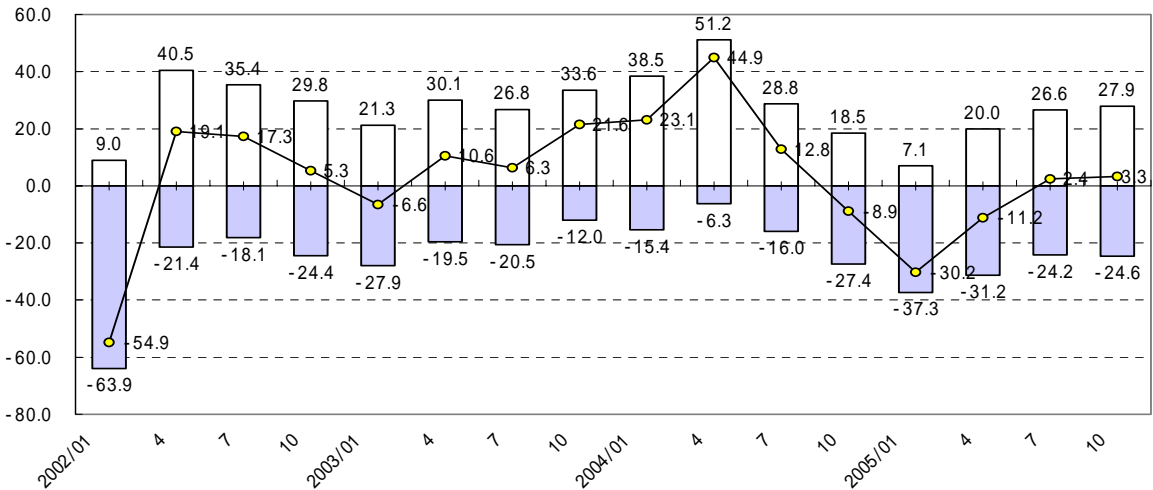
グラフ - 5



5業種の受注状況DIの推移

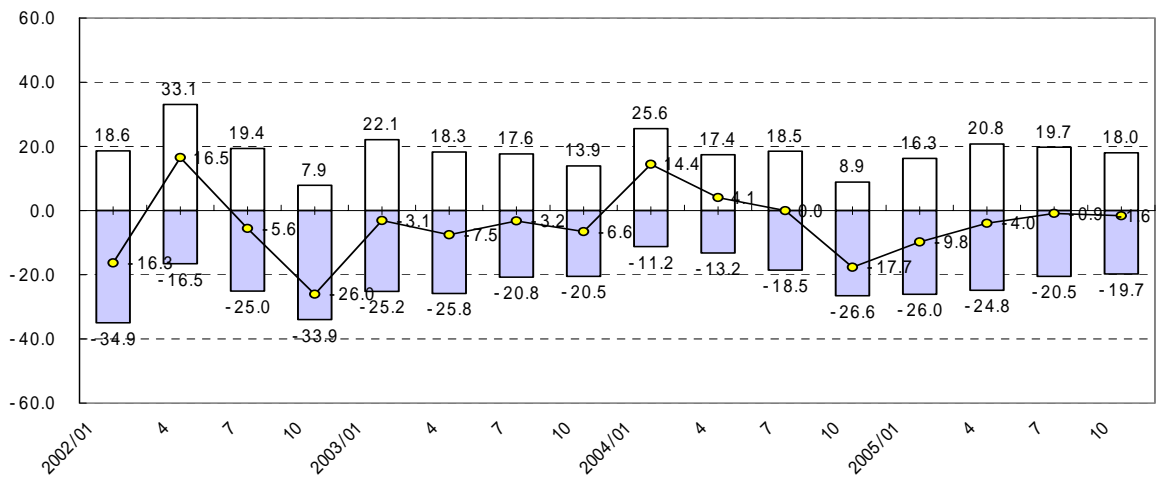
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 6



「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフ - 7



2. 商業・観光サービス業

商業

10月の天候は平均気温が戦後3番目に高く、9月に続いたの残暑で秋の季節商品の売れ行きは低調であった。食料品はリニューアル店舗の開店により店舗間競争が激化しており商品価格の低下や客単価が下がった店舗がみられた。昨年は御柱小宮で消費が伸びたため前年同期対比では昨年を割り込んだ店舗が多くみられる。

食料品、ホームセンター、大型家電店など含めた商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは0.0ポイントで業況は業種により区々となっている。「3ヶ月前」と比べての来店客数DIが35.7ポイントで消費者のリニューアル店舗などへの分散が窺える。ヒヤリング調査からは季節商品の販売不振から立ち直るため早く平年気温に戻って欲しいとの期待感が強く、食料品など今後新規開店計画があり、店舗間競争のますますの激化が窺えた。

リニューアルオープンのデパートは人気が高く出足は順調であった。

食料品 生鮮3品や惣菜など加工食品の来店客一人当たりの購入点数は変わっていないものの、販売競争が激しく値引き販売が多かったことから客単価は伸びず売上が減少した店舗がみられる。

衣料品 気温が高く季節の婦人衣料、紳士衣料は売れ行き低調であったが、子供服や肌着など実用衣料品はまずまずの売れ行きとなっている。

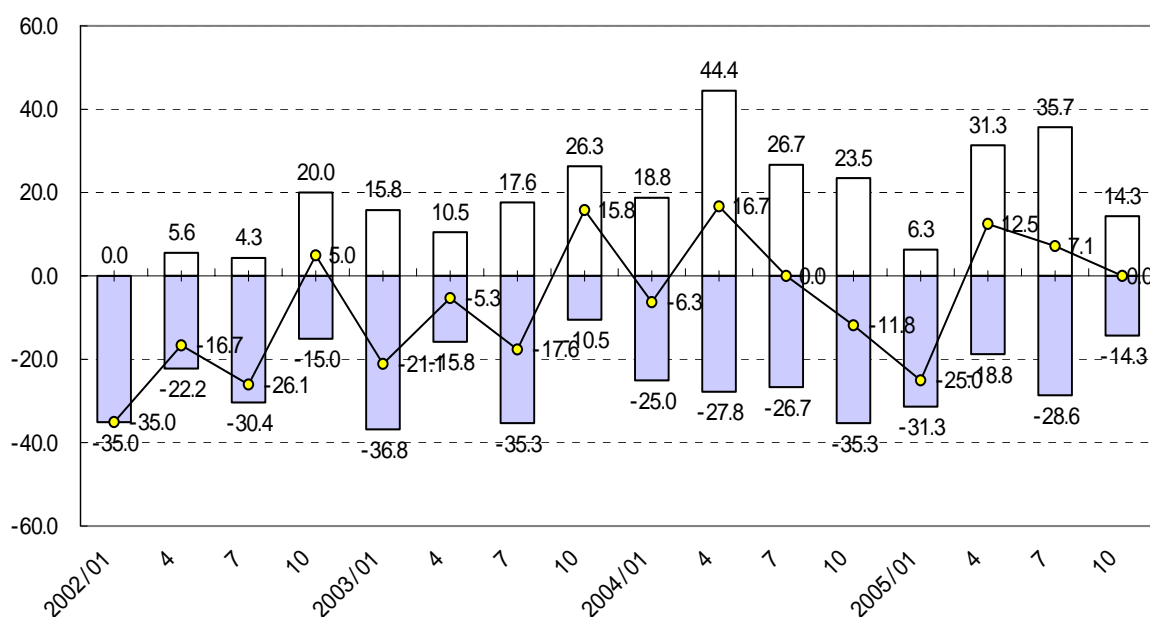
ホームセンター 電動工具など専門工具の売れ行きを伸ばした店舗がみられたが、暖房関連商品など季節商品の売れ行きは低調で総体では前年を下回った模様。

大型家電店 薄型TVは堅調な売れ行きを示しており新型の洗濯機など横這い状況となっている。暖房機器など出足が遅れており総じては前年並となっている。

業況、客単価、来店客数

表 - 4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	14	14.3	71.4	14.3	0.0	14	7.1	50.0	42.9	-35.7	14	14.3	64.3	21.4	-7.1
客単価	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	14	0.0	50.0	50.0	-50.0	14	21.4	64.3	14.3	7.1
来店客数	14	14.3	35.7	50.0	-35.7	14	14.3	35.7	50.0	-35.7	14	14.3	57.0	28.6	-14.3



観光・サービス業

秋の行楽シーズンに入り紅葉は幾分遅れたものの好天から諏訪地域の観光地はそれぞれ賑わいをみせた。宿泊客は施設により区々となっているが「3ヶ月前」と比べて宿泊客が増加したホテル、旅館は 38.9%で宿泊客数DIは 22.2ポイントとなった。「前年同期比」では 5.6ポイントでマイナスとなっているが、宿泊客が増加したホテル・旅館が 33.3%みられるなど回復しているところがみられる。

白樺湖、蓼科、霧ヶ峰方面の宿泊客数は旅館により増加、減少区々となっているが総じては前年を上回った模様。

上諏訪温泉の宿泊客数は増加したホテル、旅館が多く、総体では前年を上回った模様。

下諏訪温泉の宿泊客数は増加、減少区々となっているが、総体では前年を下回った模様。

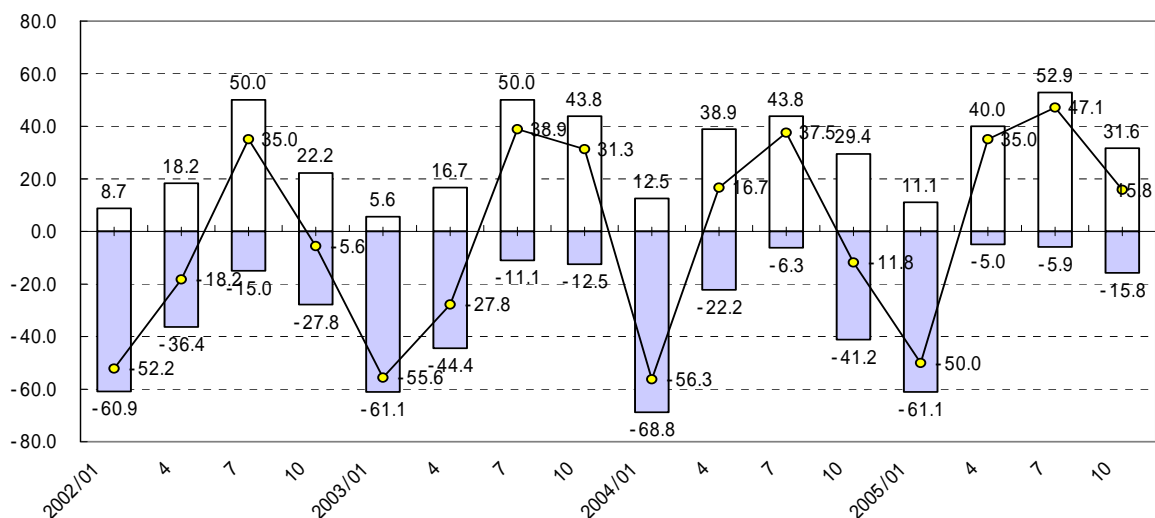
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	19	31.6	52.6	15.8	15.8	19	36.8	36.8	26.3	10.5	19	21.1	52.6	26.3	-5.3
客単価	19	10.5	73.7	15.8	-5.3	19	15.8	47.4	36.8	-21.1	19	10.5	52.6	36.8	-26.3
宿泊客数	18	38.9	44.4	16.7	22.2	18	33.3	27.8	38.9	-5.6	18	16.7	55.6	26.8	-11.1

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 9



3. 建設業

新設住宅着工件数は前年同期比 11.2%増加しており住宅専門業者の中には受注が充足したところもみられるが、大型公共工事の案件が少なく土木工事を含め工事量が少なく建設業総体としては依然厳しい経営環境が続いている。

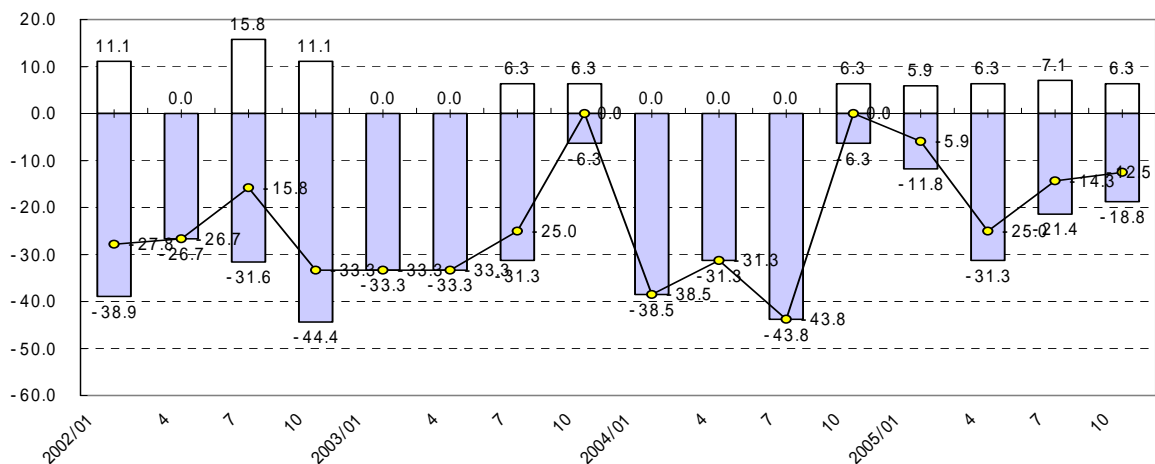
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	16	6.3	75.0	18.8	-12.5	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	15	20.0	66.7	13.3	6.7
受注状況	16	18.8	68.8	12.5	6.3	15	6.7	46.7	46.7	-40.0	14	28.6	35.7	35.7	-7.1
外注発注量	16	0.0	81.3	18.8	-18.8	15	6.7	60.0	33.3	-26.7	15	33.3	46.7	20.0	13.3

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 10



4.収益性状況

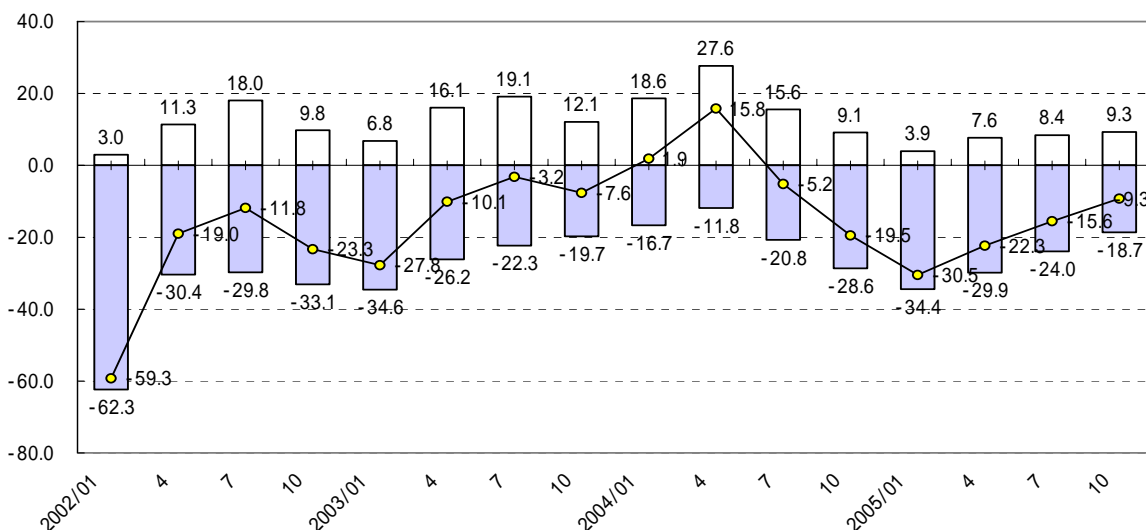
回答全社の「3ヶ月前」と比べての収益性DIは 9.5ポイントで前回調査時より 4.9ポイント改善した。

製造業は受注単価の引き下げ、材料費のコストアップなどマイナス要因があるなか、受注増から「3ヶ月前」と比べ収益DIは 9.3ポイントで幾分改善された。非製造業の収益性DIは 10.2ポイントと前回調査時より幾分悪化した。観光・サービス業は宿泊客増加などから収益性DIは 10.5ポイント、商業は競争激化や平均気温が高く販売不振などから収益性DIは 21.4ポイントとなっている。建設業の収益性DIは 25.0ポイントと厳しい状況が続いている。

「3ヶ月前」と比べての収益性DIの推移

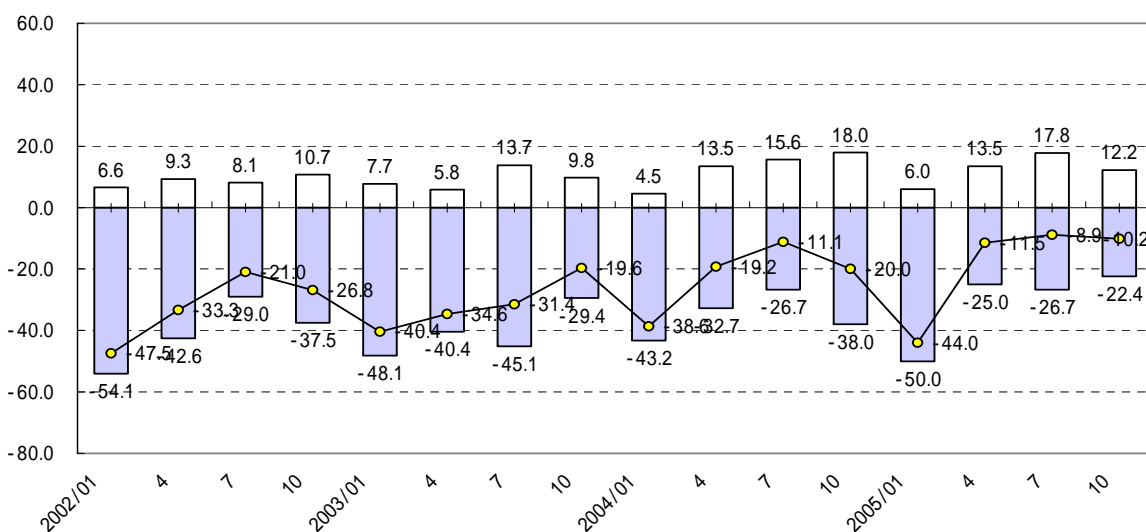
製造業

グラフ - 11



非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）

グラフ - 12



原油高騰の収益性への影響

原油価格が1バレル(約159リットル)60ドル台に高騰するなどガソリンや資材の値上がり、輸送コストアップなど影響がでている。

原油高騰の収益影響について

		前年同期比5%影響	前年同期比3%影響
製造業	144社中	20社 (13.9%)	24社 (16.7%)
観光・サービス業	19社中	4社 (21.0%)	
建設業	14社中	2社 (14.3%)	

となっておりこのまま原油の高騰が続けば経費負担や材料高となり収益性への一層の影響が懸念される。

1. 調査期間 平成17年10月末
2. 調査内容 「平成17年10月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後の予想」
3. 調査方法 アンケート調査及びヒヤリング調査
4. 対象地域 諏訪地域全域
5. 業 種 製造業、商業(大型店 売り場面積501m²以上)、建設業、観光・サービス業
6. 回答企業数 201企業 回答率 61.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	250	35	22	23	330
回答数	152	14	16	19	201

諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【9月】	諏訪公共職業安定所管内	1.27倍	0.09ポイント	
	岡谷公共職業安定所管内	1.40倍	0.10ポイント	
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	12,861枚	984枚	
	金額	15,161百万円	1,793百万円	
	うち不渡り 発生状況	枚数	2枚	0枚
		金額	478千円	5,622千円
車庫証明取扱件数【10月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,206件	5.4%	
新設住宅着工件数(17.4~17.9月) (諏訪地方事務所管内)		1,207件	11.2%	